様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：１２５０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４７２０３３７

研究課題名（和文）１９世紀アイルランド総合大学新設による社会とナショナリズムの変容

研究課題名（英文）A Study on the establishing a new University and transforming the society and nationalism in the nineteenth century Ireland.

研究代表者
崎山　直樹（SAKIYAMA, NAOKI）

千葉大学・普遍教育センター・特任講師

研究者番号：１０５１３０８８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1840年代末に設立されるクィーンズ大学の建学に至るプロセスを明らかにし、入学者並びに卒業後のキャリアを分析し、大学のカリキュラムの変容に注目したものであった。本研究を通じて、新大学建設の背景には、アイルランドのカトリック中産階級がアイルランドとブリテンとの間での緊密な関係を構築したいという願望の現れであったことを明らかにした。近年の19世紀のアイルランド歴史研究では、アイルランド人の大英帝国への荷担について研究が蓄積されており、本研究はこのような研究動向に寄与するものである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to study the process of establishing the Queen’s colleges in the late 1840s, the analyses of the admissions and the future careers of the students, and the transition of its curriculum. We found that the issue of establishing new colleges in Ireland signified the Catholic middle-class expected to building the close relationship between Ireland and Britain. Recent studies about the Irish history in the Nineteenth century, emphasised the Irish contributed the building the British Empire. This Research contributes to the research trend in the Irish-British Empire.

研究分野：人文学

キーワード：西欧近現代史　高等教育政策史　アイルランド研究　大学史　ナショナリズム研究　国際研究者交流（アイルランド）　国際情報交換（アイルランド）

１．研究開始当初の背景

(1)研究代表者はこれまで、19 世紀中葉アイルランドにおけるナショナリズム運動、カトリック中産階級の台頭、都市法人改革と自治権要求運動の連環に関する分析を行ってきた。しかしながら、これまでに明らかにしてきた分析の枠組みでは 19 世紀後半のアイルランド社会およびナショナリズムの変容を説明できず、1840 年代に何らかの変化のきっかけがあったと推測した。

(2)19 世紀を対象とするアイルランドの歴史研究は主に、アイルランドの首都ダブリンを対象地域とし、そこでの政治・経済・文化的な変化を考察したものが主流であった。ダブリン以外の地方中核都市を対象に、政治・経済・文化だけではなく、人材の供給、ネットワーク形成の基盤、知識・価値観の共有という観点から教育に注目する必要があると考えた。

２．研究の目的

本研究では、1849 年に開学したクィーンズ大学について、以下の 3 点の課題を設定し、分析を行い、それらを総合し大学建設に伴う、社会変容を明らかにする。

(1)大学建設の経緯と目的の解明
1840 年代半ばのクィーンズ大学建設に向けた議論と、それに先行して行われた 1830 年代のコーク市からの請願運動の関係性を明らかにする。

(2)入学・卒業後の進路の調査
アイルランドの地方都市に設立された三つのカレッジへの入学者の出身地域、宗派、社会階層を調査し、学生の属性を明らかにする。また卒業後にどのような職業を選択し、どこに居住したのかを調査し、大学の新設に伴う、社会の変容を考察する。

(3)教育カリキュラムの解明
新設された総合大学でどのような講座が置かれ、どのような授業が行われていたのかを解明する。また三つのカレッジ、それぞれの特徴を、既に存在していたアイルランド大学トリニティ校のカリキュラムと比較することで明らかにする。

３．研究の方法

上述した 3 つの課題に対して、現地調査を行い、史資料を収集したうえで、以下の手法を用いて分析を行った。

(1)大学建設の経緯について
議会速記録、議会委員会文書、コーク市図書館保存の同時代新聞、ならびに英国文書館所蔵の請願書を確認し、議論の経緯、人間関係、関係者それぞれの主張を確認する。

(2)入学者・卒業生の調査
各大学図書館・文書館に保管されている大学評議会文書ならびに同窓会史料を収集し、入学生の属性、卒業後の進路を把握する。

(3)教育内容に関する調査
毎年、各大学から総督府へ提出されていた報告書に掲載されている、各授業科目の試験問題を収集し、分析を行う。また、各大学図書館・文書館に保管されている大学評議会議事録および関連文書から、新規教員採用のプロセスを再構成し、開講科目の変化とその意図を分析する。

４．研究成果

(1)大学建設の経緯について
1838 年のコーク市からの大学建設を求める請願書を調査するにあたり、これに先行する議論を発見した。アイルランドの地方都市に大学を新設すべきであるという発想の源泉は、トマス・ワイズという人物であり、彼が 1830 年にウェストミンスター議会に対してアイルランド教育制度改革に関する提案を行ったことが契機となった。ワイズの構想は同時期にアイルランドに導入された国民教育制度と地方大学設立を結びつけた、教育制度の体系化を主張するものであった。ワイズはその後、国民教育学校委員会委員長、大蔵卿委員を歴任しつつ、1840 年代半ばまで連合王国政府内部にてアイルランドの教育制度の設計に従事したことが分かった。

　またアイルランド生まれのカトリック信徒であったワイズのアイルランド教育改革に対する活動は、アイルランドの住民に対しても影響を与え、同じくカトリック信徒であったジェイムス・ロチェを中心としたコーク市での誓願運動に繋がっていったことを史料の上からも明らかにすることができた。

　このような地方と政府との連携に対して、アイルランドのナショナリズム運動指導層も反応し、カトリック解放運動ならびにリピール運動の指導者であったダニエル・オコンネルもこの動きを支援するようになる過程も明らかとなった。

　本研究ではこのような 1830 年代の動きをアイルランド社会への自由主義体制の貫徹と、そのエージェントとなっていくカトリック中産階級の要求という観点から考察し、連合王国内部での対等性を求める動きと連動した権利要求の一環として、地方大学建設が位置づけられていたと結論づけた。

　しかし 1840 年代に、オコンネル率いるリピール運動の台頭に伴い、連合王国内部でのアイルランドの権利要求という側面よりも、カトリックのためのアイルランドの樹立を求める思考が一般化していくことで、アイル

ランドに新設される大学の制度設計が争点かしていった。政府は当初、宗派の垣根を越えた無宗派の大学を建設する計画であったが、カトリック、国教会、長老派といった主たる宗派の側は、それぞれの宗派ごとに独立した大学の建設を求めた。結果として、これらの意見を折衷し、既にダブリン大学トリニティ校が存在するレンスター地方を除く、三地域にそれぞれ一校ずつ、入学資格に宗派の区別を設けない大学を建設し、学内での宗派教育はそれぞれの教会が独自で実施する形で落ち着くことになった。

この研究成果については、2013 年 5 月の歴史学研究会大会近代史部会でのコメント報告ならびに 2014 年 12 月のアイルランド研究年次大会シンポジウムにて口頭報告を行い、現在活字化の作業を行っている。

(2)入学・卒業後の進路の調査

毎年、各大学がダブリンの総督府に提出した報告書ならびに大学評議会関連文書を中心に、1850 年から 1880 年までの 30 年間を対象にデータ収集を行った。しかし入学に関しては断片的な史料のみで全体像を把握することは難しかった。ただし各地域においていくつかの核となる学校があることは明らかになった。これらの学校の成立と性格については、アイルランドにおける中等教育の整備に関する先行研究を参照しつつ、論点をまとめている段階にある。

卒業生については、1880 年代に作成された同窓会名簿を発見したために、卒業後の進路についての概略をまとめることができた。特徴としては、大きく分けて二つの方向性があり、専門家としてアイルランド域内に留まるパターンと、アジア・アフリカ地域を含む大英帝国の公式・非公式帝国域内に分散する二つの流れがあることが確認できた。また少数ながら日本・中国といった東アジア圏へも移動しており、現在日本側の史料を基に、どのような役割を果たしていたのか検証を進めている。

本テーマに関する研究成果については「内国植民地からの脱却をめざして：近代アイルランドの苦闘と植民地近代性の罠」と題した口頭報告を行い、現在活字化の作業を行っている。

(3)教育カリキュラムについて

教育カリキュラムについても、各大学が年度ごとにまとめた報告書ならびに、コーク大学、ゴールウェイ大学、クィーンズ大学（ベルファスト）の大学図書館・文書館に保管されている大学教員の残したノート、講義録、大学評議会議事録を基に検証を行った。

コーク、ゴールウェイ、ベルファストに置かれた大学はそれぞれ独自のカリキュラムを行っていたわけではなく、ダブリンに置かれた大学本部と連携しつつ同等のカリキュラムを維持しようと努めていた。この背景には学位授与はそれぞれの大学ではなく、ダブリンの本部でよって担われていたためであった。また単位認定の試験も、各大学の教員が協力し、共通問題を作成していたことも分かった。

設立当初は、講座の構成も共通しており、単位認定や学位授与について問題が生じることは少なかったが、次第に受講学生が少ない科目や教員の退官に伴い、各大学における講座配置に違いが生じ、また各大学間で作問委員任命を巡る綱引きも生じるようになり、それぞれの大学ごとの特色が生まれていくようになった。

大学ごとの特色については、教員の転出、新規採用からも影響を受けていた。スコットランドやアメリカ合衆国東海岸の大学へと転出する事例もあるものの、教員の転出の事例は少ない。転出あるいは死去に伴い教員の補充は行われた。ダブリンあるいはロンドンから補充されることが多かったが、ベルファストの場合、地理的・人脈的な問題からスコットランドの人を招聘しているケースが多いことがわかった。

アイルランドの大学とアメリカ合衆国東海外の大学との関係性については移民の問題と関連した重要なテーマであり、本研究から得られた知見は、小沢弘明ほか編『つながりと権力の世界史』に収められた拙稿「『佳人之奇遇』における国家観　−留学生柴四朗の経験したアメリカとアイルランド移民との接触−」に活かされた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　2　件）

①スティーブン・エリス著、<u>崎山直樹</u>訳「フロンティアから王国へ：1494−1560 年におけるイングランド国家の中のアイルランド」『思想』査読なし、1063 号、2012 年、44−67 頁。

②<u>崎山直樹</u>「コメント　（2012 年歴史学研究会大会報告　変革の扉を押し開くために：新自由主義への対抗構想と運動主体の形成）−（近代史部会３・１１後の歴史的地平：科学・技術、国家、社会）『歴史学研究』査読なし、898 号 2012 年、109−111 頁。

〔学会発表〕（計　6　件）

①<u>崎山直樹</u>「内国植民地からの脱却をめざして：近代アイルランドの苦闘と植民地近代性の罠」『シンポジウム「国内植民地の比較史」』2015 年 2 月 21、22 日、同志社大学（京都府・上京区）。

②<u>崎山直樹</u>「1830 年代リピール運動とカトリック住民のための大学建設要求」『2014 年度

アイルランド研究年次大会　シンポジウム２「アイルランド・ナショナリズムが構想したもの」』2014 年 11 月 22、23 日、日本大学（東京都・世田谷区）。

③崎山直樹「アイルランド移民ネットワークの形成と土地戦争　−反帝国意識と女性運動の共鳴」『第 64 回日本西洋史学会　小シンポジウム「移民」概念の再検討とグローバル・ヒストリー』2014 年 5 月 31 日〜6 月 1 日、立教大学（東京都・豊島区）。

④崎山直樹「新自由主義と歴史学：近代的大学の黄昏とネオ・リベラルアーツ」『第二回日韓若手歴史研究者交流会議』2012 年 9 月 11〜14 日、ソウル国立大学校（韓国・ソウル市）。

⑤崎山直樹「コメント報告　（近代史部会３・１１後の歴史的地平：科学・技術、国会、社会）」『2012 年度歴史学研究会大会』2012 年 5 月 26, 27 日、東京外国語大学（東京都・府中市）。

⑥崎山直樹　「「千葉から通史を考える」を外国史の立場から考えてみる」『千葉歴史学会第 31 回大会シンポジウム』2012 年 5 月 20 日、千葉大学（千葉県・千葉市）。

〔図書〕（計　１　件）
①崎山直樹「『佳人之奇遇』における国家観−留学生柴四朗の経験したアメリカとアイルランド移民との接触−」小沢弘明、山本明代、秋山晋吾編『つながりと権力の世界史』彩流社、2014 年、232 頁（担当：183−205 頁）。

６．研究組織
(1)研究代表者
崎山　直樹（SAKIYAMA, Naoki）
千葉大学・普遍教育センター・特任講師
研究者番号：１０５１３０８８